

登米地域の麦作技術情報 第1号

令和3年2月15日発行
Tel 0220-22-6127

登米農業改良普及センター
HP <http://www.pref.miyagi.jp/site/tmnokai/>



1 調査ほ及び管内の生育概要

～茎数は平年を大きく下回る～

管内では多くの麦生産者が大豆も作付けしており、大豆収穫後に麦を播種したほ場では、11月以降となり、大幅に遅れました。

また、12月の積雪は根雪となり、年内生育は遅れ、融雪後は葉先枯れがみられました。

なお、一部ほ場において、白鳥やガン類による食害がみられました。

2月10日調査では、草丈及び茎数が平年を大きく下回っています。

表1 2月10日現在の生育状況

品種	町域	地区	播種日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)
あおばの恋	豊里	上谷地	11/14	6.6	96
		(平年値)	11/5	9.0	356
シラネコムギ	迫	新花島前	11/12	3.5	172
		(平年値)	11/5	9.5	328

*平年値はH28～R2年の5か年平均

2 今後の管理について

(1) 排水対策

消雪直前に暗渠栓を開放し消雪直後には、排水口の拡張、明きょ連結部分の点検など、排水対策を迅速かつ定期的実施しましょう。

越冬により衰弱した麦に、融雪水の停滞と高温条件が重なると、湿害を助長します。湿害が生じた状態では、追肥の効果は見込めません。

(2) 麦踏み

年明け後(3月～茎立ち前まで)の踏圧は、1～2回行いましょう。霜柱によって麦の根が浮き上がり枯死しやすくなるので、越冬後にほ場が乾燥したら、直ちに踏圧を行いましょう。ただし、土壌水分が高い状態では車輪に麦が付着し、根が抜け枯死の原因となるので注意してください。

また、鳥害を受けたほ場では、株が引き抜かれて根が浮いており、その後の凍害や乾燥害を受けやすくなるので、早めに麦踏みを行ってください。

茎立期を過ぎてからの作業は伸びてきた茎を折ってしまうので、4月1日以降は控えてください。

(3) 追肥

“麦は金肥でとる”と言われるように、追肥が重要です。

特に本年は平年に比べ生育量が少ないほ場が多いことから(目標とする2月上旬の茎数はm²当たり400本)、根雪が溶け、ある程度ほ場が乾いたら茎数確保のため、株直し追肥を行いましょう。

また、一穂の粒数を増やし子実の充実を図るために、幼穂形成期とともに減数分裂期追肥を行いましょう。

表2 食用麦の追肥の目安 単位: N kg/10a

	目安時期	株直し追肥 (起生期)	幼穂形成期 (幼穂長2~3mm)	減数分裂期 (幼穂長20~30mm)	穂揃期 (8~9割出穂)
		茎数を増やす	穂数を増やす	一穂粒数を多くする	千粒重、蛋白含量を高める
小麦	生育状況	2月~3月上旬	3月下旬~4月上旬	4月下旬~5月上旬	5月上旬~中旬
	播種が早い(生育量多)	-	2.5	2.5~5	2.5~5
	播種が遅い(生育量少)	1~2	1.5~2		
大麦	時期	2月~3月上旬	3月中旬~4月上旬	4月中旬~4月下旬	-
	生育状況				
	播種が早い(生育量多)	1~2	2~2.5	2~2.5	-
	播種が遅い(生育量少)	1	1.5~2	1.5~2	-

* 平成25年度麦・大豆研修会資料より抜粋・一部改変
* 大麦は、硬質粒の発生を防ぐため、穂揃期追肥は行わない。

【採種ほの追肥】

種子生産では、倒伏をさせないこと、子実の充実を図ることが合格種子へ繋がります。
追肥時期が遅く、量が多くなるほど成熟期が遅れるので注意してください。
ほ場ごとに茎数(㎡当たり 500 本以上の場合には特に注意) や葉色を勘察し追肥量を判断してください。
幼穂形成期の追肥は、幼穂形成期とそれ以降の追肥窒素合計量を 5kg/10a 以内としてください。

表3 種子用麦類の追肥の目安

	追肥時期		追肥量(窒素成分)
	時期	時期	
大麦	融雪後~幼穂形成期	1月下旬~3月中旬	2~3kg/10a
	減数分裂期	4月中旬から4月下旬	2kg/10a
小麦	融雪後~幼穂形成期	1月下旬~3月下旬	2kg/10a
	減数分裂期	4月下旬~5月上旬	2~3kg/10a
	出穂期~穂揃期	5月上旬~5月中旬	1~2kg/10a

(4) 雑草防除

高温傾向のため、雑草の発生が目立つほ場が見られます。除草剤の種類によって、効果が高い雑草とほとんど効果のない雑草があるので、雑草の種類を確認した上で、除草剤の雑草茎葉散布を使用適期に行いましょう。

(注) 除草剤を使用する前に必ず登録内容を確認し、使用基準に従ってください。

春の農作業安全確認運動

令和3年4月1日から6月31日まで

◇◇◇見直そう！農業機械作業の安全対策◇◇◇